

医療的ケア児等が地域において安心して生活を営むことができるよう保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関が地域課題やその対応策について協議する「医療的ケア児等支援連絡会」を実施した。

前年度に続き医療的ケア児等を対象としたサポートガイドの作成と医療的ケア児等に対応する事業所や支援者が増えることを目的とし、第2回目の喀痰吸引フォローアップ研修を開催した。構成員それぞれが専門性やネットワークを活かし、課題解決に向けての取り組みを行った。

1. 開催状況

開催日	内容	参加者
5月17日	・サポートガイドの作成 ・喀痰吸引フォローアップ研修の実施について	17名 (16事業所)
6月17日	喀痰吸引フォローアップ研修の対象者・内容の検討 (オンライン)	12名 (10事業所)
7月12日	・情報アプリ「けあさん」、サポートガイドの作成 ・喀痰吸引フォローアップ研修プログラムの検討	17名 (13事業所)
9月6日	・情報アプリ「けあさん」、サポートガイドの作成 ・喀痰吸引フォローアップ研修の準備物等の確認 ・在宅療養支援推進会議の報告	13名 (12事業所)
10月17日	研修内容の確認(オンライン) 宝塚市担当者参加	13名 (11事業所)
11月8日	研修当日のスケジュール、役割の確認	14名 (14事業所)
1月17日	・情報提供 ・情報アプリ「けあさん」について ・関係機関との連携について	14名(14事業所)
3月14日	(予定)	

2. 研修

開催日	内容	参加者
7月4日	市立ひまわり特別支援学校「保護者進路研修会」における福祉サービス・医療、卒業後の進路等に関する情報提供	保護者、教員
11月16日	「喀痰吸引フォローアップ研修」実施 ・8月23日事前学習用講義動画撮影、10月配信 ・講義、グループワーク、実技指導、病棟見学 ・講師：訪問看護ステーションつな樹 伊藤氏、医療福祉センターさくら 看護師2名、市内事業所看護師2名 ・場所：医療福祉センターさくら	29名 ヘルパー6名、施設職員2名、療養介護3名、特別支援学校2名、看護師5名、相談支援専門員6名、行政5名

【成果と課題】

・医療的ケア児等が利用できる制度や社会資源をライフステージに沿ってまとめたサポートガイドを作成中。当事者とその家族・関係者が情報を入手しやすくなり、必要な支援を受けられるよう完成を目指す。

・今年度も市立ひまわり特別支援学校の保護者進路学習会に参加し、医療的ケア児等の支援に関する情報提供を行った。参加した保護者からは、これまで知らなかった情報を聞くことができた、今後に向けて成年後見制度について知りたいなどの意見が聞かれた。支援者は情報を得る機会が多い一方で、当事者や保護者には情報が届いていないことが多く、どこから情報を得られるのか分からないという意見もあるため継続した情報提供等を行う。

・喀痰吸引フォローアップ研修では、今年度は宝塚市にも呼びかけ合同で実施した。講師には連絡会の構成員である看護師の他、指導者資格のある市内事業所の看護師らの協力が得られ、連絡会の枠をこえて共に人材育成を行った。参加者からは、医療福祉センターさくらの病棟で実際に吸引場面を見学したことでイメージができ理解が深まった、研修があることでヘルパーの不安が取り除かれるとの声が聞かれた。

しかし実際、三田市に関わらず医療的ケア児等に対応できる事業所や支援者は増えず、利用できる社会資源は限られており家族の介護負担が軽減しているとは言えない。支援者の高齢化や人材不足の問題もあるため地域自立支援協議会や県内の医療的ケア児等コーディネーターを含めて考えなければならない課題である。

○開催場所：総合福祉保健センター

参加事業所一覧：17

【保健所】宝塚健康福祉事務所

【医療】訪問看護ステーションつな樹、在宅ホスピス イル・ケア

【相談支援事業所】あすなる相談支援事業所、三田福祉の里相談支援センター
三田わくわく村（大原）、相談支援事業所「ねくすと」、オフィスリブ

【ヘルパー事業所】WELnet さんだ、Bee Kind（神戸市北区）

【医療型障害児入所施設・療養介護】医療福祉センターさくら、兵庫中央病院

【こども療育センター】かるがも園

【教育】ひまわり特別支援学校

【こども】すくすく子育て課

【その他】障害福祉課、基幹相談支援センター（事務局）